

家畜損害防止関連情報

◆最終回 これからの岩手の酪農

～地域一体となって取り組む時～

私は岩手で約10年にわたって牛群検診を行ってきて痛感したことがあります。それは、岩手の酪農で高泌乳路線を追究していくには相当の無理があるということです。なぜならETにより牛の高泌乳・大型化のスピードが飛躍的に早くなっているにもかかわらず、牛舎が今の牛のサイズにすでに対応できなくなっています。

さらに分離給与では乳量のさらなる増加には対応できないので、大規模フリーストール牛群への転換が必要になりますが、資金および土地の問題から転換可能な牛群が少ない上、大規模化できたとしても糞尿（ふんにょう）の還元先がなく、さらに酪農家を本気でサポートできる組織もまだ存在しません。

ではどうしたらよいのでしょうか？

多くの酪農家には規模拡大という選択枝はないと思います。大都市近郊や北海道と違う、付加価値の高い特色のある酪農を模索していくこと以外に道はないと思います。それは物質の地域内循環を完結させた「循環型酪農」だと思います。

それを行うためには、岩手の唯一の財産である“中山間地の自然”を生かし、酪農以外の農林業やその他の産業との有機的なつながりを作ることが必要になってきます。さらに流通を介さずに生産者と消費者が顔の見える関係を作ること、物質の地域内循環の完結には必要です。

健康な牛から生産された安全でおいしい牛乳を消費者は切望しており、それは生産者の想（おも）いでもあります。同じ想いの酪農家と消費者が直結して地域一体となった取り組みを模索していく時期が来たのではないのでしょうか？

これは世界の市場原理に基づいた経済とは異なった、地域に根ざしたローカル経済を模索していくことです。この方向性は、酪農に限らず“食と農の再生プラン”によって切り捨てられようとしている規模拡大できない多くの農家が生き残れる唯一の道でもあり、畜産を含めた“農”が地域社会の中核を担っている岩手そのものの生き残りでもあると思います。

生産獣医療の目的は“牛が持って生まれた能力を無理なく最大限に引き出す”ことです。引き出し方は地域、環境、飼養者によってそれぞれ異なってきます。それをお手伝いしながら共に模索していくのが生産獣医療獣医師の仕事であると考えています。